

令和7年度 調布市立布田小学校 学校経営計画（校長 横山 公一）

学校の教育目標	
○自ら考えくふうする子（知恵） ○けんこうでねばり強い子（勇氣） ○なかよく助け合う子（優しさ）	
目指す学校像(ビジョン) 例) 学校像, 教員像, 児童・生徒像	
(1)「子どもたち一人一人を大切にする学校」(2)「児童が自ら感じ・気づき、発想して、具体的に動き出す学校（これは高学年時）」	
ビジョンの設定理由 (本校の現状と課題)	①子どもたちの個性や願いが大切にされ、(教師や大人によって) ②かかわるすべての人が互いに人権を大切にし、(大人も子供も) ③子どもたちが自分の居場所を感じられる学校、 「子どもたち一人一人を大切にする学校」を目指す。 ①児童自身「これ面白いなあ」「なぜだろう」「ふしぎだな」「こうしてみたいなあ」などと感じたりや気づいたりし ②児童が、学んだことや経験をもとに「こうしたらよいのでは」「こうしたら面白いなあ」と発想して ③個人で、もしくは友達と協働して「こうしてみよう」と、動き出す姿が実現する学校を目指す。 【現状と課題】 ◇各学年・学級は落ち着いていて、真面目に学習に取り組む様子が見られる。テストで測る学力は高い。 ◇(意図的計画にはあるが)しつらえられたイベントをそつなくこなすことからの脱却が必要。(6年間かけて、 重いものから軽いものまで、「自分で(たち)でやった」という経験値の膨大な蓄積をめざしたい。) ◆児童一人一人の特性を理解したうえで、どのように教育活動を展開していけば、「自ら考え動く」児童が育てられるかを、 全教員 が授業や諸活動の中で強く意識し、具体性をもって横の連携を図りつつ展開してゆくかが重要。 ◆体力の向上が不十分である。 ◆児童は小さな集団にまとまりがち、粘りやこだわりに欠ける面が見られる。逆境に弱い。
中期的な経営目標	
1 自律した行動のとれる知性、判断力や、豊かな心をさらに醸成する。学年の発達段階に応じた指導。6年を明確なモデルとして示す。 2 ICT や対話という手段を重要な活動と位置づけて学力の向上を図る。 3 健康保持・体力増進のために考え、判断する力と積極性、体力の向上をめざす。 4 アレルギーや熱中症対策、いじめ問題や不登校対策、安全指導の情報共有と組織対応、徹底により、安全・安心な学校生活を確立する。 5 子どもたち一人一人の個性や特性を大切にしながら、自己有用感をもち生き生きと活動できる学校教育を展開する。 6 CS 制度を活用し(2年目)地域の知恵や教育力を活用して、学校の教育活動、児童の安全確保をより充実させる。	
人・組	

調布市立学校における共通した領域 <短期的な経営目標>		
1 豊かな心(徳)	2 確かな学力(知)	3 健やかな体(体)
(1) 取組目標(具体的方策)	(1) 取組目標(具体的方策)	(1) 取組目標(具体的方策)
①互いの良さを認め合う活動、思いやり・誰かのために自分を生かす行動を称えあう活動などの日常化を図る。【学級等ほぼ毎日】	①ICT を積極的に活用し、児童が個別に最適な学びの獲得と、互いに対話したり協働したりしながら学ぶ経験値をさらに高める学習指導を工夫し展開する。【毎時間】＊ICT は適所で活用だが、年間を通じたらどの教員も必須	①なわとび・持久走期間の取組を充実させ、運動技能や体力を育てるとともに、チョコブラウン(運動委員会の活動と連携)で運動への関心、わずかな体力向上の蓄積を進める。【向上期間】
②音楽鑑賞、伝統芸能鑑賞・体験等文化文芸活動の充実を図るとともに、日々の異学年交流を通して互いを知り、自覚を高めたり、あこがれの心を育んだりする。【行事やイベント毎振返り】	②「表現する」力や経験値の向上と蓄積を図る。学習にとどまらず、特活等においても、児童が自分の思いや考えを様々な手段をもって表現する機会を設ける。【ほぼ毎日、毎時間】	②体育の授業、休み時間の外遊びの推奨など熱中症対策、感染症対策、児童の体調等に十分留意した運動の機会の充実を図る。【体育の授業・毎日】
(2) 成果目標(数値目標)	(2) 成果目標(数値目標)	(2) 成果目標(数値目標)
①(年間)保護者、児童アンケートで、肯定的評価85%以上。(学期ごと)担任や担当に面接時に実施率を聞き取り、100%の実施率。	①児童アンケートで、肯定的評価85%以上。(学期ごと)担任や担当に面接時に実施率を聞き取る。おおまか、毎日の活用。	①児童アンケートにて、体力向上の取り組みへの参加実態が肯定的85%以上。チョコブラウンは、委員会活動から期間ごとに提案し実践できたか。
②(年間)保護者、児童アンケートで、肯定的評価85%以上。(学期ごと)関係する担任や担当に面接時に実施率を聞き取り、80%以上の実施率。	②児童アンケートにおいて、「表現する力や意欲の向上」が実感できたという回答が70%以上(学期ごと)担任や担当に面接時に具体的な実施実態を聞き取る。	②(年間)保護者、児童アンケートで、健康に関する肯定的評価85%以上。

学校の特色を生かした領域 ＜短期的な経営目標＞		
④ 映画の街 調布市立布田小ならではの学習活動の展開	⑤ 個に応じた、安全・安心な学校生活の確立	⑥ 保護者・地域の教育力の活用
(1) 取組目標（具体的方策）	(1) 取組目標（具体的方策）	(1) 取組目標（具体的方策）
① 映像表現という手法を用い、総合的な学習等の単元のまとめを発信する。児童の意欲や協働的な主体性を保証した活動を行う。	①特別支援関連：個（特性）に応じた教育活動の具体的な展開を行うために、指導教諭や拠点校専門職員の知識や手法を OJT で学びあい、児童が教室や学校の中で自分に自信をもって学ぶことができる環境を作る。	PTA 行事や地域行事について、保護者・地域と連携して活性化を図る。
② 多摩川の自然環境、下布田遺跡という歴史遺産、畑作、田植えや収穫、地理的な「はけ」を身近にもつアドバンテージを活かすと共に、校内環境を整備する。	②いじめゼロ、不登校対策：定期的な状況把握（アンケート）対策委員会の定期的開催（最低月一）組織的な対応の迅速な方針決定、情報共有（最低毎週一度）を行い、未然防止と早期解決を図る。	見守りアテンダント等の協力を得て、防災・防犯、交通安全の協力を得る。
(2) 成果目標	(2) 成果目標（数値目標）	(2) 成果目標（数値目標）
①3年生以上において、・インタビュー形式・ルポ・ナレーション・ニュース・映画（全教科の総合的な力を結集させて創作） 昨年度作品を参考にチャレンジをする。【1 単元】	① 特別支援対応は、管理職による授業参観後の面接や、ケースに応じた情報共有時に確認する。【相談は常時、体系だった研修は月一程度】 保護者アンケートにて、特別支援（個）への対応項目で肯定的な評価85%以上	①漢字検定・盆踊り等の実施。学校関係者評価委員会における肯定的評価85%以上。
②校外学習等にて全学年がいずれかについて必ず一度ふれる。【年間一度以上】 ピオトープや栽培環境整備の向上を理科委員会など児童の具体的な活動に投影させる。（大人からの押しつけにしないで実施したい）	② いじめ・不登校対応 いじめ案件ゼロ（通年） 確認できた場合は、解消率100% 不登校（傾向含む）児童を、一名でも減らす。 保護者・児童アンケートで対応や姿勢への肯定的評価が85%以上	②交通事故、犯罪被害0件。 地域からの情報対応（例公園の児童のマナー）100%、児童への指導還元必須。

人材育成・組織運営
◇服務事故防止に向けた、全職員の意識の向上とプロ意識、責任意識の更なる醸成を図る。（日常的な情報共有や指導、年に最低三度の防止研修の実施） ◇面接を通じて、主任教諭の役割の自覚を高め、若手への OJT を活性化させる。 ◇指導教諭、OJT 担当をリーダーに校内研修会を開催し、常に学び続ける教員の資質向上を図る。（月2回程度）。 ◇職員のライフワークバランス改善をのため、会議・業務等を整理削減し効率化をはかる。 ◇SSS や副校長補佐などの人材を計画的に活用することで、個人の雑務への負担を低減し児童に向き合った職務に焦点化できる職場環境をめざす。 ◇「布田小学校の先生であることが楽しくてしかたがない教師」がいる学校を実現する。